

福知山公立大学将来計画にあたっての提言

地域と大学がともに発展する「福知山モデル」創出のために

令和3年2月4日

福知山公立大学将来計画策定有識者会議

はじめに

福知山公立大学は開学以来総合的な知識と専門的な学術を深く教育・研究するとともに、地域に根ざしつつ、世界を視野に活躍できる高度な知識及び技能を有する人材を育成しており、北近畿地域の持続可能な地域社会の発展と地方創生に寄与するための「地域協働型教育研究」を特徴とした教育研究を推進するとともに、福知山市が策定した第一期中期目標（平成28年3月策定）や「知の拠点」整備構想（平成30年2月策定）を踏まえ、定員増や情報学部の新設などにも取り組んできた。

福知山市としても、福知山公立大学と京都工芸繊維大学の集積を地域創生の好機と捉え、両大学を北近畿地域の「知の拠点」と位置付けて、福知山公立大学の取り組みを支援するとともに両大学の知見を活かした人材育成や産業振興などさまざまな地域施策を推進してきた。

福知山公立大学と福知山市の双方のこれまでの努力は一定の成果を収めつつあるが、開学から5年を経過したばかりであり、大学設置の意義を発揮していくためにはこれらの継続した取り組みが非常に重要である。他方で、グローバル化、AIやIoTをはじめとするSociety 5.0に向けた情報技術の急速な進展、18歳人口の減少などの社会環境や激甚化する自然災害など地域社会を取り巻く状況は大きく変化しており、大学運営にはこれまで以上の創意工夫が求められている。

福知山市を含む北近畿地域では依然として人口減少、高齢化の進行、産業構造の変化などが進み、更に今般の新型コロナウイルス感染拡大を受け、地域の将来像はなお一層不透明な状況にある。

こうしたなかにあって、福知山市が今以上に住みよいまち、住み続けたいまちであり続けるためには、人口規模や経済基盤、都市機能、安心安全な生活環境の確保など地域ポテンシャルの維持・拡大、ウィズコロナの新たな社会構築のカギを握るデジタルトランスフォーメーション（DX）や産業イノベーションなどを推進しなければならない。

そのためには両大学が集積する「知の拠点」の強みを最大限発揮することが必要であり、それには持続可能な地域社会の創出というミッションを福知山市と福知山公立大学で共有し、福知山市は福知山公立大学との連携を行政運営の基盤の一つに据えるとともに、福知山公立大学は市民や行政、企業等をパートナーとして教育研究に取り組み成長・発展を目指していくことが求められる。現に、福知山市ではスマートシティ推進やスタートアップエコシステムの創出、独自の情報教育などの施策を福知山公立大学とともに取り組もうとしている。この福知山市と福知山公立大学の連携した動きは新たな取り組みとして他大学には

ない独自性を発揮することになるであろうし、福知山市にとどまらず北近畿地域全体の産学官など幅広いセクターを巻き込んだ大きな広がりを出創することを大いに期待する。

地域と福知山公立大学の発展を一体のものとして大胆な地域創生施策に取り組み、地域の様々なステークホルダーが主体的に挑戦できる機会を出創することで地域にイノベーションと新たな価値を生み出す「福知山モデル」とも言える福知山公立大学と地域との関係性の構築につながることを望みたい。

福知山公立大学と福知山市が共同で次期中期目標・中期計画の骨子となる「福知山公立大学将来計画」を策定するにあたり、地域の広い知見を反映するため「福知山公立大学将来計画策定有識者会議」が設置され、令和2年10月より計3回にわたり公開で議論を重ねた。

本提言はその議論をうけて、福知山公立大学と地域が一体となって共に成長する「福知山モデル」の実現のために必要と考えられる取り組みを掲げ、福知山公立大学と法人設置団体である福知山市に対して提言するものである。これより、福知山公立大学と福知山市が策定する将来計画並びに次期中期目標・中期計画は、第2ステージに入る福知山公立大学が、今後その真価をしっかりと発揮するための具体的な展開を示す非常に重要なものであり、そこに当会議からの提言趣旨が活かされることを期待する。

1 大学を活かしたまちづくりの方向性について

福知山市は平成29年度に「知の拠点」整備構想を策定し、福知山公立大学、京都工芸繊維大学がしっかりと連携して北近畿地域の「知の拠点」となるよう両大学の教育・研究、地域連携活動を支援してきた。

今後も引き続き福知山公立大学の充実発展に向け法人設置団体として必要な支援を行うとともに、次のような施策を展開されたい。

- (1) “大学があるまち”の強みを活かし、教員の知見やネットワーク、学生の活力など両大学が持つあらゆる資源を、施策やまちづくりに取り込み、若者人口の増加につなげるなどして、地方大学を活かした地域創生の全国モデルとなる「福知山モデル」として先進的な取り組みを推進すること。
- (2) 地域に開かれた大学の特性を活かし、企業、行政、大学が連携して地域の新たな産業の創造や、安心安全で豊かな地域の創生につながる共同研究など諸施策を強力に展開すること。そのため、「知の拠点」整備構想に掲げた京都工芸繊維大学をはじめとする近隣の高等教育機関や北近畿地域の自治体、企業等の各種団体との連携による推進体制「産学官連携コンソーシアム（地域連携プラットフォーム）」を構築すること。
- (3) 学生が卒業後も引き続き当地域で暮らし働き続けられる仕組みづくりが重要であり、魅力ある産業・雇用の場の創出のため行政、産業界をあげてインターンシップの幅広い展開や企業誘致、起業支援などに積極的に取り組むこと。

2 福知山公立大学の教育研究内容の充実に向けて

(1) 教育研究組織の基本的枠組みについて

大学をとりまく環境は厳しさを増し、大学には教育研究組織などの不断の改革・改善が求められることは言うまでもない。

福知山公立大学がこれからもその特色と強みを活かし、地域のニーズに対応して、教育研究の質の更なる向上を図るため、次のとおり取り組まれない。

- ① 情報学部を中軸とする大学院の令和6年度開設に向けて、そのために必要な組織や人員の確保を図ること。
- ② 地域経営学部においても、社会の変化に応じた更なる教育研究の充実と組織改編を図ること。
- ③ 京都工芸繊維大学はもとより、舞鶴工業高等専門学校など近隣の高等教育機関との共同研究の推進や、大学間での単位互換制度の検討など教育・研究の一層の連携に取り組むこと。
- ④ 目的意識や学習意欲が高い多様な学生を確保するため、多元的な評価に基づく入学者選抜制度の改革に取り組むこと。
- ⑤ 地域の高等学校からの要望の高い教職課程の開設について検討すること。
- ⑥ 上記の新たな取り組みを進めるにあたっては、現状では大学設置基準最低

限の教員配置であることを鑑み、教員評価制度を適正に運用しつつ、計画的な教員の定員計画をたて教育研究の充実を図ること。

(2) 「地域協働型教育研究」の深化・拡充について

福知山公立大学の教育・研究の知見を活かして地域社会と課題を共有し、協働してより具体的な成果の見える解決策を見出すためには、福知山公立大学の基本的研究手法である「地域協働型教育研究」を一層深化・拡充する必要がある、そのために次のとおり取り組まれない。

- ① 福知山公立大学が今まで取り組んできたインターンシップやフィールドワークなどをはじめとする地域協働型教育研究の成果を地域社会により見えるものにし、その地域課題の解決につなげること。
- ② 福知山公立大学の地域経営学部と情報学部のそれぞれが強みを活かし、市民・行政・企業とともに地域の価値向上と価値創造につながる研究に取り組むこと。
- ③ 地域に開かれた大学、市民に見える大学づくりを更に進めるため、地域協働型教育研究の実践の場としてまちなかでの学生の活動拠点である「まちかどキャンパス」の充実とともに、新たな地域への拡充についても検討すること。
- ④ 工業団地や地域の企業・事業所のスペースを活用しての共同研究のため、例えばサテライトラボの設置などについても検討すること。

(3) 地域・社会貢献のための取り組みについて

上記(2)の地域協働型教育研究の深化・拡充に加えて、グローバルな視野で主体的に考え行動できる人材の育成や、北近畿地域からの入学者と北近畿地域への就職者の確保により当地域における人の好循環を生み出すハブとして機能する魅力的な大学となるよう、次のとおり取り組まれない。

- ① 地域の研究拠点として地域住民と協働しながら地域の課題解決に応える研究を通じて地域社会を担う人材育成や多様で豊かな文化の醸成に資する取り組みを進めること。
- ② 福知山公立大学の持つ知的資源を活用し、北近畿地域の幅広い世代の市民に向けた学習機会の拠点として多様な分野のリカレント教育の機会を提供すること。
- ③ 小学校、中学校、高等学校、大学を有する学園都市として福知山ならではの強みを活かし、探究学習やプログラミング教育をはじめ幅広い分野で連携を強める取組を進めること。
- ④ 北近畿地域連携機構は、福知山公立大学における学部を越えた地域・社会活動の連携組織として先導的役割を果たしている。今後、産学官連携組織である「産学官連携コンソーシアム（地域連携プラットフォーム）」の構築に

向け、福知山市と関係団体とともに基盤づくりに取り組むこと。

- ⑤ 福知山公立大学の附属機関として「地域防災研究センター」や「国際交流センター」を早期に開設し、大学だけでなく地域とともに研究し運営する仕組みの構築に努めること。

(4) 施設整備計画について

厳しい財政状況にあっても、多様で質の高い教育・研究活動を展開するために機能的なキャンパス整備を中長期的な視点をもって財源確保も勘案しながら計画的に行うことが重要であり、次のとおり取り組まれない。

- ① 令和6年度の大学院開設を目指した教育研究施設整備を福知山市と連携して取り組むこと。その施設整備については、既存施設の有効活用をはじめ、民間の資金やノウハウを活用するなど多様な手法を検討すること。
- ② 学生のニーズの把握に努め、学修支援、住環境、課外活動などの学生支援のための施設整備を計画的に行うこと。
- ③ 大学施設の有効活用を図るとともに、長寿命化計画に基づき施設の機能保全及び維持管理を計画的に行うこと。

(5) 経営基盤の強化について

上記(1)から(4)のさまざまな取り組みを実施するための経営基盤の強化が必要であり、福知山市等と調整し、次のとおり取り組まれない。

- ① 競争的研究資金や受託研究、共同研究等の外部資金の獲得に向けた取り組みを推進すること。
- ② 効率的で特色ある大学運営を進めるため、地域社会のモデルとなるような大学運営のDX化などに積極的に取り組むこと。

○福知山公立大学将来計画策定有識者会議 委員名簿

所属	職名等	氏名（敬称略）
京都工芸繊維大学	学長	森迫 清貴
舞鶴工業高等 専門学校	校長	内海 康雄
経済産業省	近畿経済産業局 地域経済部長	矢島 秀浩
京都府	中丹広域振興局長	綾城 義治
福知山商工会議所	副会頭 (福知山重工業株式会社代表取締役社長)	中本 宏樹
長田野工業団地 立地企業	ニンバリ株式会社 代表取締役社長	杉山 俊輔
京都工業会	副会長 (株式会社日進製作所代表取締役会長)	錦織 隆
京都府 公立高等学校長会	副会長 (京都府立峰山高等学校 校長)	長島 雅彦
福知山市	副市長	伊東 尚規
	高等教育施策に関する特別顧問	大槻 秀明
	教育連携顧問	坂根 文伸
福知山公立大学	理事長兼学長	井口 和起
	理事兼副学長	矢口 芳生
	理事兼事務局長	山本 裕一
	地域経営学部長	岡本 悦司
	情報学部長	西田 豊明

○福知山公立大学将来計画策定有識者会議 審議日程

	日時	場所	主な内容
第1 回 会 議	令和2年10月16日(金) 午後2時から	福知山公立大学	<ul style="list-style-type: none"> ・設置趣旨説明 ・座長選任 ・大学を活かしたまちづくりの方向性に関する事 ・教育研究の充実に関する事 ・意見、質疑応答 など
第2 回 会 議	令和2年11月27日(金) 午後2時から	福知山公立大学	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究の充実に関する事 ・教育研究環境の整備に関する事 ・意見、質疑応答 など
第3 回 会 議	令和3年1月21日(木) 午後2時から	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ・教育研究環境の整備に関する事 ・地域連携の充実に関する事 ・経営基盤の強化に関する事 ・意見、質疑応答 など